

覆い下栽培による高品質・高収益な 二番茶生産に好適な被覆開始時期と期間

八女分場

1 背景、目的

福岡県では、玉露生産拡大のために乗用型摘採機等による機械化に適した被覆棚の設置が増加しています。覆い下栽培（玉露）園の収益性を向上させるには、二番茶も被覆棚を利用して品質を高める必要があります。そこで、高品質かつ高収益な二番茶生産に好適な被覆開始時期や被覆期間を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 二番茶の覆い下栽培で、粗収益（市場評価額×荒茶収量－加工経費）が最も高くなる被覆開始時期は1.5葉期です（図1）。
- 2) 1.5葉期から被覆を始めると、被覆期間が20日程度までであれば、日数が長くなるほど生葉収量は増加しますが、被覆期間の増加とともに、うま味成分である遊離アミノ酸含量は減少します（図2）。
- 3) 高品質な二番茶を生産するには、被覆開始を1.5葉期から、被覆期間を14日間程度とします（図2）。

3 主要なデータなど

(万円/10a)

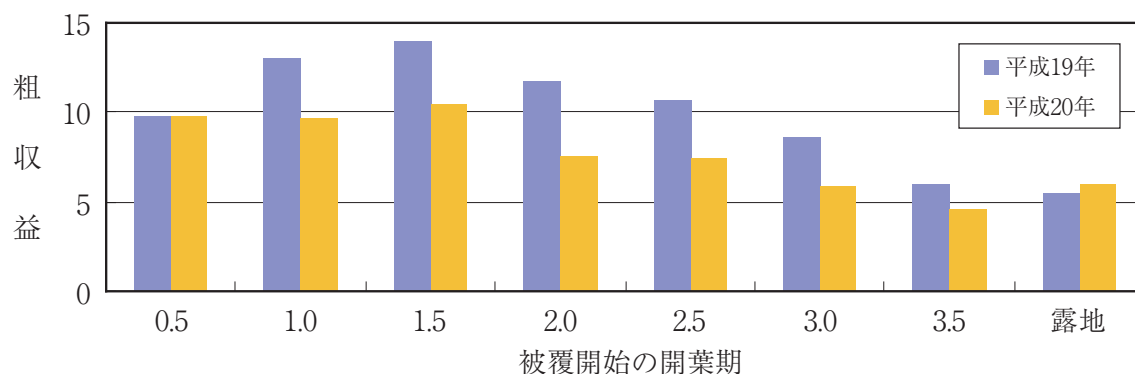


図1 二番茶の被覆開始時期と粗収益

- 注) 1. 粗収益 = 評価額 × 荒茶収量 - 加工経費 (100円 × 生葉収量)。
 2. 使用した被覆資材の遮光率は90～95%。

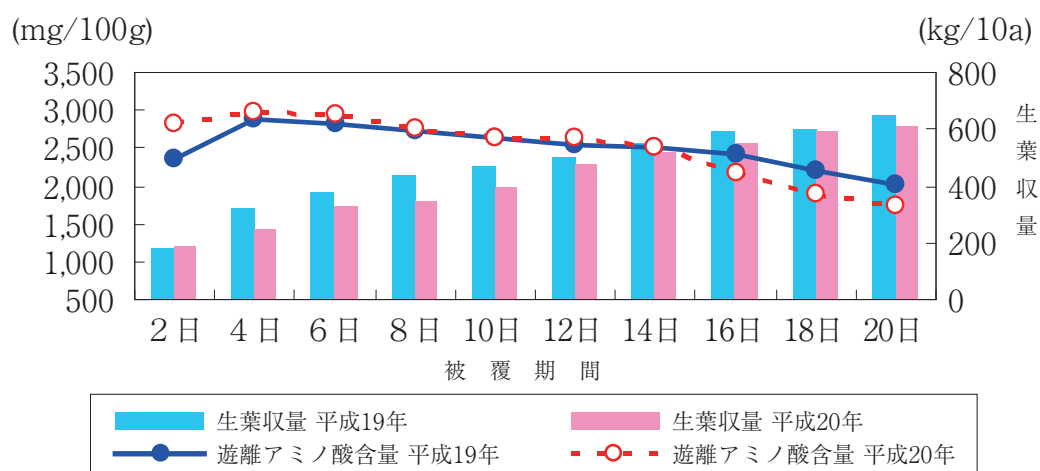


図2 1.5葉期からの被覆期間と生葉収量・遊離アミノ酸含量



図3 被覆開始時 (1.5葉期) の覆い下栽培茶園